《築地川》より「明石町」 1941(昭和16)年　前期展示

《築地川》より「亀井はし」 1941(昭和16)年　前期展示

© Akio Nemoto 2021/JAA2100228

《築地川》より「築地橋」 1941(昭和16)年　後期展示

下田市制50周年記念

企画展

鏑木清方 築地川の世界

2021年
10月9日(土)～
2022年
1月10日(月・祝)

前期 | 10月9日(土)～11月25日(木)
後期 | 11月26日(金)～1月10日(月・祝)

会期中無休 **(会期中一部展示替えあり)**

開館時間 | 午前9時30分 ― 午後4時30分
(入館は午後4時まで)
入 館 料 | 大人1,000円／学生500円／
高校生以下無料
＊仏教館・近代館の共通券です ＊団体10名以上は10%割引

東洋と西洋の美の出あい
上原美術館
Uehara Museum of Art

薬師如来像
平安時代
松崎町・指川区
松崎町指定文化財

如来頭部
平安時代
静岡市・松野阿弥陀堂
静岡市指定文化財

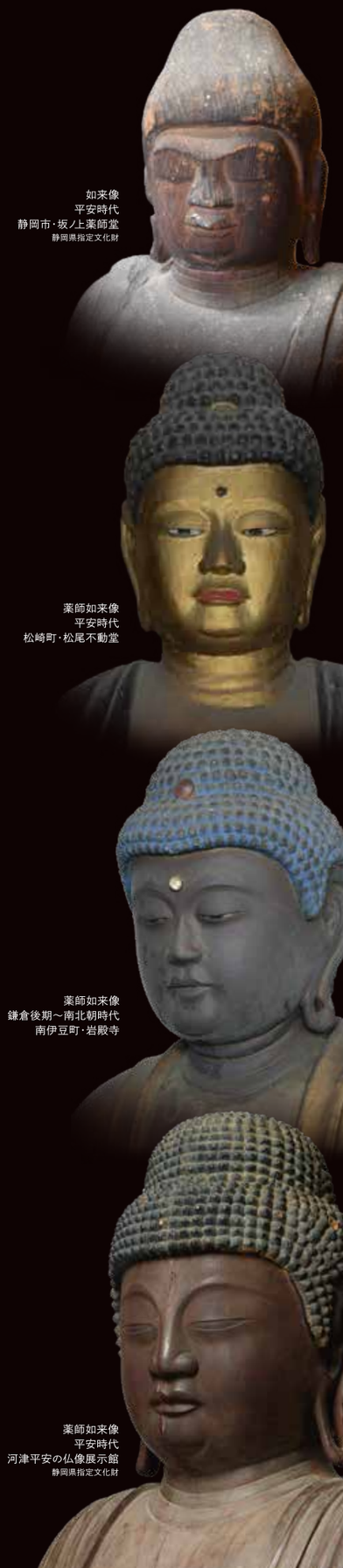
薬師如来像
平安時代
下田市・曹洞院
下田市指定文化財

薬師如来像
平安時代
南伊豆町・青龍寺
南伊豆町指定文化財

特別展

静岡の仏像＋伊豆の仏像

―薬師如来と薬師堂のみほとけ―



如来像
平安時代
静岡市・坂ノ上薬師堂
静岡県指定文化財

薬師如来像
平安時代
松崎町・松尾不動堂

薬師如来像
鎌倉後期～南北朝時代
南伊豆町・岩殿寺

薬師如来像
平安時代
河津平安の仏像展示館
静岡県指定文化財

下田市制50周年記念

2021年
10月9日(土)
|
2022年
1月10日(月・祝)

会期中無休

| 開館時間 | 午前9時30分 ― 午後4時30分
(入館は午後4時まで)
| 入 館 料 | 大人1,000円／学生500円／
高校生以下無料
＊仏教館・近代館の共通券です ＊団体10名以上は10%割引

東洋と西洋の美の出あい
上原美術館
Uehara Museum of Art

特別展

静岡の仏像＋伊豆の仏像

―薬師如来と薬師堂のみほとけ―

下田市制50周年記念

静岡県は東西を結ぶ東海道、太平洋と甲斐国（山梨県）を結ぶ富士川街道など、無数の街道が縦横に走る本州の結節点。静岡県中部は古く駿河国と呼ばれ、現在の静岡市に国府が置かれていました。一方、県東端の伊豆は古来海上交通の要衝で、遠く離れている静岡市と伊豆は、同じように人とモノ、文化が行き交う重要な土地だったのです。

静岡市と伊豆を仏像から見ると、興味深い共通点があります。いずれも古い薬師如来像が多く、薬師如来を中心とする群像があるのです。本展では伊豆に伝わる薬師像と、静岡市に伝わる薬師如来を取り巻く群像の一部を厳選して展示。二つの地域の仏教文化についてあわせて考える機会となればと思います。展示する仏像の多くは通常非公開。この機会に是非ご覧ください。

如来像　平安時代
静岡市・坂ノ上薬師堂　静岡県指定文化財

菩薩像・天部像　平安時代
静岡市・松野阿弥陀堂　静岡市指定文化財

地蔵菩薩像　平安時代
河津平安の仏像展示館 静岡県指定文化財

- **お車で**　新東名高速道路 長泉沼津ICより
  下田方面へ　1時間40分
- **鉄道・バスで**　東京駅より特急踊り子号
  2時間40分　伊豆急下田駅下車
  同駅より堂ヶ島方面行バス　20分
  相玉下車　徒歩15分

東洋と西洋の美の出あい

上原美術館
Uehara Museum of Art

〒413-0715　静岡県下田市宇土金341
Tel. 0558-28-1228　www.uehara-museum.or.jp

《築地川》より「伊達様の水門」　1941(昭和16)年　前期展示

《築地川》より「紫陽花の垣」　1941(昭和16)年　後期展示

《築地川》より「佃」　1941(昭和16)年　後期展示

《築地川》より「作者」　1941(昭和16)年　後期展示

下田市制50周年記念

企画展

鏑木清方 築地川の世界

「鶸色に萌えた楓の若葉に、ゆく春をおくる雨が注ぐ。
あげ潮どきの川水に、その水滴は数かぎりない渦を描いて、
消えては結び、結んでは消えゆるうたかたの、久しい昔の思い出が、
色の褪せた版画のやうに、築地川の流れをめぐつてあれこれと偲ばれる。」

（鏑木清方 随筆集『築地川』より）

鏑木清方(1878-1972年)は、幼い頃に暮らした東京・下町に深い郷愁の念を抱いていました。上原美術館で新収蔵しました画帖《築地川》は、清方の少年時代の思い出に満ちた作品です。

築地川はかつて築地を囲むように流れていた掘割の川で、そこには多くの人々が集い生活を営んでいました。外国人居留地があった「明石町」、夏は行人の憩いの場となった「伊達様の水門」、夕涼みに賑わう「亀井はし」、鰯売りが水揚げする「佃」など、水とともに生きる明治時代の人々の姿が作品からは垣間見えます。

また、清方は紫陽花をこよなく愛した画家としても知られています。それは幼少の頃に「明石町」にあった異人館で咲く紫陽花や、築地一丁目の「紫陽花の垣」に魅了されたことに始まるといいます。清方の思い出にあふれた画帖からは、少年時代に見た築地川流域の姿が目の前に広がるようです。

本展では美しい絵と文章でつづられた画帖《築地川》を中心に、清方が描いた明治の下町に暮らす人々の生活をご紹介します。清方の愛した穏やかな懐かしい日々の情景、そしてそこで生きる魅力的な人々の姿をどうぞご覧ください。

開催中のイベント情報につきましては、上原美術館ホームページをご覧ください。
www.uehara-museum.or.jp